

# はぎのだい

令和3年9月30日（木）

学校だより 10月号②



津幡町立萩野台小学校 校長 青山 昌美

## 学校評価の中間結果及び今年度の学力調査の結果をお知らせします

### ◇学校評価の中間結果及び分析・今後の方針について

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をありがとうございます。夏休み前の学校評価についてのアンケートへのご協力もありがとうございます。同時期に児童アンケートと教職員アンケートも実施し、それらの結果をもとに学校評価を取りまとめました。

この学校評価は、私たち教職員が自らの教育活動を振り返り、今後更なる改善に向けて取り組むことをねらいとしたものです。全教職員でこの結果を共有して分析し、今後の方針を固めましたのでお知らせします。

#### 【学校評価（中間）の見方】

どの項目も、「重点目標について講じた具体的な手立てに確実に取り組めたか」という実施状況についての評価と、「その手立てにより、実際に成果が見られたか」という成果についての評価を行いました。そして成果についての達成率をもとに、各項目とも次のような基準で評価しました。

なお、平均値の最高値は「4.0」であり、平均値 3.0 ならば達成率は 75%となります。

A：平均値 3.5 以上（十分達成している）	B：平均値 3.0 以上（概ね達成している）
C：平均値 2.5 以上（十分でない）	D：平均値 2.5 未満（不十分）

※小数第2位四捨五入

例えば、(1)『根拠を明確にして表現し合う子』の育成」の場合は、実施状況の評価は、次の3点のアンケート結果をもとに行いました。

- ・教職員アンケート「授業の8割程度で学校研究に基づいた共通実践を行うことができた」 →結果 3.1
  - 「各授業において、『根拠に着目させる』『自分の考えを持ち、表現し合わせる』ための手立てを一つ以上講じた」 →結果 3.4
  - ・保護者アンケート「学校（教師）は、分かりやすい授業をしている」 →結果 3.7
- } 平均 3.3

成果の評価は、次の4点のアンケート結果の平均値をもとに行いました。

- ・児童アンケート「毎日の授業で、自分の考えが持っている」 →結果 3.4
  - 「毎日の授業で、自分の考えを発表することはできている」 →結果 3.3
  - 「毎日の授業で、友達と考えを話し合うことは楽しい」 →結果 3.2
  - 「毎日の授業で、自分の考えを話すときは、自分の考えのもと（根拠）を『～ですよ』と話すようにしている」 →結果 2.9
- } 平均 3.2

重点目標 (1) の評価は、成果の評価が「3.2」なので B 評価（概ね達成している） となります。

### 学校評価（中間）

	重点目標	評価データ	評価	結果の分析→今後の方針
1 学力向上	(1) 「 <u>根拠を明確にして表現し合う子</u> 」の育成	(実施状況) 教職員 3.3 保護者 3.7 (成果) 児童 3.2	<b>B</b>	昨年度前期の評価を維持している。教師は根拠に着目させたり、自分の考えを持ち、表現し合わせるための手立てを講じてきたが、児童には筋道を立てて自分の考えを表現することができたことへの実感がまだ薄いと考える。 →引き続き、児童が「自分の考えが相手に分かりやすく伝わった」と実感できるように、 <u>根拠を明確にして筋道を立てて話す場を意識的に設ける</u> などの手立てを講じる。

1 学力向上	(2) 基礎基本の定着	(実施状況) 教職員 3.3 保護者 3.5 (成果) 統一テスト正答率 漢字 93% 言語 83%	A	漢字の定着に比べて言語事項の定着が弱い、目標正答率には届いており、A評価である。管理職や級外の教師が計画的に各学級に支援に入り、漢字の定着を図ることができた。 家庭学習については、今後も家庭と連携して充実させることが必要である。 →2学期以降も定期的に管理職や級外の教師が学習支援に入る。家庭学習がまだ身に付いていない児童については、各担任と家庭とが連絡を取り合ったり、宿題の量や内容を調整したりしていく必要がある。
	(3) GIGA スクール構 想実現に向けた 取組の推進 (町内共通)	(実施状況) 教職員 3.0 (成果) 児童 3.6	A	各児童にタブレットが配付されてから、タブレットを活用した授業を積極的に行ってきた。児童はタブレットを用いた学習に意欲的に取り組んでいる。 →タブレットを活用した授業実践や、教師間での情報交換を一層進めていく。
	(4) 英語教育の充実 (町内共通)	(実施状況) 教職員 3.3 (成果) 児童 3.2	B	昨年度前期の評価を維持している。他校の取組の情報を得たり、日々の教師間の交流で指導方法等について活発に意見交換を行ったりしてきた。デジタル教科書やピクチャーカード等の教材を充実させてきたことも、指導に有効であった。 →今後も CAN-DO リストを活用したり、教師間で実践例や教材を共有したりすることで、英語教育の充実を図る。
2 豊かな心の育成	(1) 自己有用感の育成	(実施状況) 教職員 3.7 保護者 3.6 (成果) 児童 3.4	B	昨年度前期と同じB評価ではあるが、数値は0.3ポイント上昇した。児童アンケート「自分にはよいところがある」という項目に対して、これまでなかなか向上しなかった高学年の評価が上昇したことは大きな成果であると考える。 →引き続き、「はぎのつ子キラリさん」の取組や日常的な教師の関わりなどを通して、児童の自己有用感の育成に取り組む。児童が様々な力を発揮できる行事においても、児童のよい行動を見逃さず、認め、広めていく。
	(2) 社会的生活習慣 の定着	(実施状況) 教職員 3.6 (成果) 児童 3.3 保護者 3.5	B	昨年度前期と同じB評価ではあるが、数値は0.2ポイント上昇した。しかし、児童アンケートでは「言葉遣い」に対する評価が3.0ポイントと特に低い。「汚い言葉を使ってしまった」と振り返ることはできるのだが、その改善に向けて努力しようとするまでには至っていないと考える。 →11月の生活目標の取組では、学校や学級から増やしたい言葉、無くしたい言葉を具体的に話し合わせることで、言葉への意識が高まるようにする。乱暴な言葉を教師が聞き逃すことのないようにし、指導を重ねていく。
	(3) 道徳教育の充実	(実施状況) 教職員 3.2 (成果) 児童 3.2	B	昨年度前期の評価を維持している。道徳科の授業では特に児童が自分の思いを表現できるよう工夫してきた。しかし、児童アンケートによると、全体の25%の児童が「道徳の授業で自分の思いや考えを表現できない」と感じている。 →引き続き、授業の中で児童一人一人が、思いを表出できる授業づくりや学級づくりを目指す。また、個々の授業の様子やノートを見取り、表現したことについての肯定的な反応を返すことで、自信をもたせ、表現意欲の向上を図る。

2 豊かな心の育成	(4) 夢や目標を持つ児童の育成	(実施状況) 教職員 3.3 (成果) 児童 3.1	B	昨年度前期の評価を維持している。児童に目標を持たせ、振り返らせる活動を、もっと意識的に行う必要がある。 →大きな行事を行う際には、目標を持たせ、その振り返りをしっかりと行う。目標を立てる意義についても指導する。
	(5) 特別支援教育の充実	(実施状況) 教職員 3.6 (成果) 教職員 3.6	A	昨年度前期の評価を 0.3 ポイント上回り、A評価となった。担当が児童一人一人の様子を細やかに報告し、全職員でその児童の様子や具体的な支援方法を共有できた。 →引き続き、児童一人一人の様子について報告し合って共通理解し、支援の方法について共有していく。
3 健康的な生活習慣	(1) 健康的な生活習慣の定着	(実施状況) 教職員 3.6 (成果) 児童 3.5 保護者 3.0	B	昨年度前期の評価を維持している。早寝早起きに関する取組として、特に指導が必要な児童に夏休み前に個別指導を行い、保護者へお知らせを出すなどし、家庭との連携を図った。また、学校全体で感染症予防を徹底して行ってきた。 →学校保健委員会への保護者参加を促したり、学校保健委員会の動画の一部を学校 HP にあげたりして、保護者との連携を図っていく。また、県内の新型コロナウイルス感染症の状況もこまめに把握し、タイムリーな情報発信や指導を行っていく。
	(2) 体力向上	(実施状況) 教職員 3.6 保護者 3.4 (成果) 体力テスト結果 前年度比-3.4%	C	体力テストの結果が前年度の結果を下回ったため、昨年度前期のA評価がC評価と下がった。コロナ禍による運動不足が影響していると考ええる。 →「柔軟性」については、授業の隙間時間や休み時間にも取り組めるストレッチを紹介する。「走力」については、体育科の準備運動として、走る運動を積極的に取り入れる。
4 危機管理	(1) 学校の危機管理能力の向上	(実施状況) 教職員 3.9 保護者 3.7 (成果) 教職員 3.3 児童 3.9	A	昨年度前期の高評価を維持している。学校生活のどの時間帯においても安全教育や安全指導が行き渡っており、大きなけがや事故がなかった。避難訓練では、児童に自分の身を守るための安全行動が身に付くよう、事前指導を徹底した。 →特に大きな行事の際には、けがや事故防止に向けて、事前指導を含め教師間で安全指導を確実に行う。引き続き、避難訓練等の機会を利用して安全行動の指導を行う。日頃から危険箇所がないかを確認し、事故発生の未然防止に努める。
5 家庭との連携	(1) 効果的・効率的な指導のための家庭との連携	(実施状況) 教職員 3.8 (成果) 保護者 3.7	A	昨年度前期の高評価を維持している。学校 HP を毎日更新している効果であると考ええる。 →今後も、保護者の教育活動への理解や協力を得るため、毎日の更新を続けていく。
6 業務改善	(1) 教職員の働き方改革と業務改善 (町内共通)	(実施状況) 教職員 3.3 (成果) 時間外勤務時間 平均 60H 未満 ▽ A : ~60H 指 B : ~70H 標 C : ~80H △ D : 80H~	A	時間外勤務時間の減少により、A評価となった。前年度の6・7月の時間外勤務時間と比較すると5%減となっている。今年度は職員減により1人当たりの業務が増え、しかも「GIGA スクール構想」により新しいことを学ぶ必要性が生じているため、各職員の業務がなかなか軽減できない状況にはあるが、それでも会議の精選や日課の変更等、業務改善の取組を実施してきた成果が見られた。 →ICTの有効的な活用を図り、さらに業務の改善を進める。

## ◇5月の学力調査の結果について

今年度の学力調査の実施状況は以下の通りです。

名称	対象学年	教科
全国学力学習状況調査	6年生	国語・算数
石川県基礎学力調査	4年生	国語・算数
	6年生	社会・理科
津幡町学力調査	5年生	国語・算数

上記の学力調査について、本校児童の結果は次の通りです。

学年	国語	算数	社会・理科
4年生	県平均と比較して ◎	県平均と比較して ◎	
5年生	町平均と比較して □	町平均と比較して ◎	
6年生	全国平均と比較して □	全国平均と比較して ◎	社会：県平均と比較して ●
	県平均と比較して ▲	県平均と比較して □	理科：県平均と比較して □

### 結果のマークの見方

平均との差が

+10.1～ …☆

+5.1～+10.0…◎

+2.6～ +5.0…○

-2.5～ +2.5…□

(平均並み)

-2.5～ -5.0…●

-5.1～-10.0…▲

-10.1～ …★

国語は、4年生が県平均を5点以上上回り、5年生は町平均並、6年生が県平均を5点以上下回る、という結果となりました。算数は、4・5・6年生ともに平均よりかなり上回りました。また、特に4年生の学習の定着がよいことが分かりました。

4・5年生に比べて6年生の結果がやや低いように見えますが、6年生の学力は、2年前4年生時から経年比較すると次の表のようになります。この結果から、学年ごとに平均する母体が県・町・国と違いはあるのですが、それでも6年生の学力は年々向上していると考えられます。

実施時期	学力調査	国語	算数
令和元年4月 4年生時	石川県基礎学力調査	県平均と比較して ★	県平均と比較して ★
令和2年6月 5年生時	津幡町学力調査	町平均と比較して ●	町平均と比較して ○
令和3年5月 6年生時	全国学力学習状況調査	全国平均と比較して □	全国平均と比較して ◎

また、これらの結果から、本校児童は「算数が強く、国語がやや弱い」という傾向があることが分かりました。そこで、国語の力として、言語事項（漢字や文法、慣用句等）に関する力や「自分の考えを持ち、根拠を明確にして表現し合う力」をつけるよう、指導を強化しているところです。

さらに、上記の各種学力調査の結果を合わせて各教科における傾向を分析したところ、次の点に弱さが見られることが分かりました。今後の改善策とあわせてお知らせします。

	弱さが見られた点	今後の改善策
国語	目的に応じ、複数の文章や資料を結び付けて、必要な情報を見付けること	説明的文章を扱う単元において、低学年では挿絵と文章をつなげて読み取る活動を、高学年では目的に応じて百科事典やパンフレット等、複数の資料から情報を収集し選択する活動を、授業に多く取り入れる。
算数	量感の捉えや単位換算 (例) ・教室の面積は50cm <sup>2</sup> か50m <sup>2</sup> か50km <sup>2</sup> か(量感) ・1km <sup>2</sup> は何m <sup>2</sup> か(単位換算)	日常生活と関連付けた題材や問題を取り上げ、操作活動、体験活動を十分取り入れた授業を行う。 単位換算を扱う授業では、換算の方法を自分なりに説明できるように指導する。
社会	表やグラフ等の資料を複数組み合わせ合わせて考察すること	複数の資料を提示し、資料から読み取ったことを話し合わせる活動を、授業に多く取り入れる。
理科	電気、電流についての理解 水における気体・液体・固体の姿への理解	特に「電気・電流」に関する単元及び「水」に関する単元において、既習や生活経験を根拠に予想をもつ活動や、結果をもとに用語を正しく使って説明したり自分の考えを表現したりする活動を、授業に多く取り入れる。

これからも、学校改善、そして学力向上にむけて職員一丸となって取り組んで参ります。変わらぬご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。